

令和5年度 第2回 備前市公共交通会議 会議録要旨

開催日時：令和5年12月12日（火） 13時30分～15時00分

開催場所：備前市役所 3階 大会議室

出席委員：大東 正虎【ノートルダム清心女子大学人間生活学部人間生活学科教授】

藤森 仁美【備前市市民生活部長】

小野 一嘉【県タクシー協会和気支部】

山口幸右典（代理）【西日本旅客鉄道（株）】

雄島 仁【大生汽船（株）・日生交通（有）】

金本 伸一【備前市自治会連絡協議会】

高木 常孝【備前市自治会連絡協議会】

松本 和好【備前市老人クラブ連合会】

三宅 陽【備前市老人クラブ連合会】

横山 茂樹【備前市老人クラブ連合会】

吉田 奈美【中国運輸局岡山運輸支局】

東原 良樹【岡山県備前県民局東備地域管理課】

石黒 功司（代理）【備前警察署】

國廣みゆき【岡山県県民生活交通課】

青砥 良定【瀬戸内市総合政策部企画振興課】

出席委員 15名

委任状提出委員 4名

事務局：市民生活部公共交通課

川淵（課長）、河上（係長）、千田

株式会社 ウイング神姫

福本

1. 開会

2. 副会長あいさつ

・皆さん、こんにちは。本日はよろしくお願ひします。会長が本日、急遽、ご欠席ということで私が代わりにご挨拶させていただきます。コロナ以前に、路線バスの赤字の状況が7割と言われていた。一番近い調査の結果では、9割が路線バスが赤字になっているという全国的にそのような結果になっている。公共交通を考えるうえで、採算性に重点をもって議論をすると、なかなか市民の方々が使いやすいようになっていないということがあつた。まずは市民の方がどういふ公共交通を望んでいるのか、また市としてどのような方針で取り組んでいるのかを合わせて考えながらより良い公共交通を作っていくというかたちでお願ひしたいと思つております。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

3. 議事

(1) 東備西播定住自立圏圏域バス「ていじゅうろう」の経路及び時刻表の改正(案)について

ウイング神姫：資料に沿って説明

副会長：説明について質問があるか。

副会長：今回このルートがかわった所は赤穂市部分で、備前市内で変わった所はないということですね。

ウイング神姫：はい、そうです。

副会長：今回ご説明頂いた中で意見がでたら、それを赤穂市の地域公共交通会議でこんな意見があったということをご理解いただけるという話でいいか。

ウイング神姫：今回お聞きした意見は持ち帰り、次の検討会議をさせて頂きたいと思う。

副会長：時刻表に関しましては時間が変わったことで、備前市内の本数が減ったということではないということですか。

ウイング神姫：本数に変更はございません。

委員：湯の内辺りから奥に入って回ると、住宅にずっと入っていくということであるが、運行時間がかなりかかるのではないかと思う。利用者の皆さん方がどういう風に捉えているのか、懸念しているところがあるが、今回の変更コースを見ると、かなりの利用者の対象にあがってくると思うのですが、先ほどの説明にもあったように早く行って早く帰りたい、短時間でいきたいという声もあると思うので、その辺の利用者への説明も大事かなと思う。

ウイング神姫：今回、時間設定にするにあたり、バス停の赤穂市内、路線の迂回ルートもあり、確かに目的地に到着するのが遅くなる便がある。現在、利用している備前市民のほぼ8割9割がイオンで降車され、またイオンから帰るという利用をされています。今後のルートのように既存の「ていじゅうろう」運行ルートの最終到着地点がイオン赤穂となっております。今回は先にイオン赤穂を通過して、最終市民病院という形にしており、現状、吉永からイオン赤穂までの運行時間が今現在、59分かかっております。今回の時間設定は、吉永から市民病院まで1時間7分。約10分ほど遅くはなるんですが、イオンの方に早めに到着出来るよう配慮した路線の走り方となっておりますので、ご理解いただきたい。

委員：事前に停留所に提示して事前に周知や市の広報であるとかそれだけでは見過ごしてしまうと思うのでできるだけ早めに周知していただければ、苦情も少なく抑えられることができるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

委員：備前市の事務局の方にお伺いいたします。「ていじゅうろう」に関しまして、備前市から支出されているのか。

事務局：東備西播定住自立圏と言いまして、みなさんご存じのように備前市、赤穂市、上郡町の西1町で構成しております。備前市は中心市ということで、特別交付税として、備前市に入ってくる。市の他いろんな事業をおこなっており、一般財源部分として2市1町で負担もしており、バス路線につきましては、路線バス特別交付税分と負担金を納付している。

委員：市が一般財源を負担していることであって備前市内の利便性が特に向上するわけではないことがとわかった。ありがとうございます。

委員：私、吉永町に住んでおりまして、いつも田んぼ仕事の前を通っている。「ていじゅうろう」が空気ばかり運んでいる。たまたま知り合いが骨折し、赤穂の病院にかかり、車が運転できないので、リハビリのため「ていじゅうろう」を使わせてもらい非常に助かったという事です。それで伺いたいんですけど、「ていじゅうろう」のバスは基本的にいつも待機は赤穂市内なのか。

ウイング神姫：そうです。

委員：朝、吉永病院発なので回送は吉永病院に行っている。最終的に吉永病院が最後なので回送という形で赤穂市に帰っている。例えば県道沿いで何か所かその回送をやめて客が乗れるというような工夫はできないか。そうすると朝、早く利用する人が出てくるとか、ちょっと遅くなくても赤穂の方にいきたい人もいれば、利便性も向上するのではなか。回送で空でバスを運転するのはもったいないと思い、質問させてもらった。

ウイング神姫：非常に新しい考え方、無駄をなくす非常に良い意見だと思いますので今後の検討課題として、備前市さんと赤穂市さんとまた次回会議の場で、このような提案があったとお伝えいたしたい。

4. 報告(1) デマンド型乗合タクシー運行状況について

事務局：資料に沿って説明

委員：備前バスの受託運行をしているが、以前は朝から晩まで一日いただいていたが、市が雇用するドライバーの方に、正規の営業時間を割り当て、残業時間とか発生するような時間帯は私ども外部の方に回すというかたちで組まれ、朝早くと夕方から最終便を運行している。

事務局：バスの運行について、今回4月から市営バスのダイヤを大幅に減便や、見直しを行っている。その際、直営部分で走るダイヤ、委託事業者をお願いしているダイヤ、それぞれ割り振り、分担して運行しているところである。今年度、ダイヤ減便したことにより、不便になったというご意見も多々頂いている。来年度に向けてバスダイヤを減便したダイヤの復活とかの調整を行っている。先ほどのお話ありました、早朝、夜の便の間の昼間の時間帯がなくなったという話もありましたがそのへんを踏まえて、今後ダイヤの調整をしていきたいと考えているところである。

委員：今まで8ヶ月運行した中で、例えば、危険を察知したことやそのようなことがなかったか、運行した中で、問題点、改良するべきところ、どこまで把握できているのかと。今日でてるのは、利用者の数や利用状況についてのデータしか出ていない。まだまだ小さな声がたくさんあったと思うが、その辺をしっかり吸収して頂いて、それに対して対策をやっていただかないとダメではないかと思う。

事務局：4月から運行しており、今のところデマンドタクシーの事故、トラブル、大きな報告は頂いていない。今後も受託事業者と協議をしながら、安全面について配慮しながら運行していきたい。また、そういった声もあれば、次回会議でも資料が添付できればさせていただきますと考えております。

委員：受託事業者は個人が多いんですか。

事務局：個人さんに委託しているのは3地区。残りは市内のタクシー事業者さんのほうに委託している。

委員：AIを活用して一番効率的なルートで運行をやっているところもあると聞いたが、そういうふうな方法かなにか考えているのか。

事務局：備前市で今現在運行しているデマンドタクシーについては、前日までの予約ですので、ドライバーが電話で予約を受け付けると、前日までにはルートがはっきりと確定しますので、今現在の予約の受け付けであれば、AIを導入するまでもないと考えている。

委員：このデマンドはずっと続けていくんでしょうか。

事務局：もちろん。

委員：大々的に進めていくということですね。

事務局：市内にタクシー事業者さんもおられますので、共存共栄できるような方法で続けていけたらなと考えている。

委員：変わるかどうかわかりませんが、時間の延長ですね、少なくとも17時ぐらいまでは考えてもらえないだろうか。土日運行は無理なんだろうか。ということも含めて、進めていく事で色んなご意見が出てくると思うが、ご検討お願いできればいいかなと思っている。

事務局：確かにデマンド運行を開始して、様々な意見をいただいております。利用者さまからすれば、より便利により使いやすいデマンドタクシーというお声。ただ一方でタクシー事業者さんでありますとか、民間の路線バス、JRとかの利用促進というのは市として図っていかないといけない。利用者の利便性を高めるのはもちろん必要であるとは思いますが、一方で民間の公共交通機関も守って行かないといけないので、慎重に検討して参りたい。

委員：ある事業者が、今日の会議に際して、存続できないから辞めようかと思うと聞いた、こうやって周辺部からどんどんタクシーがなくなっていくと思いますので、ぜひ、もう一度お考えください。

委員：デマンドタクシーの開始後、6月にアンケートが実施されアンケート結果を拝見した。アンケート結果には、運行していることを知らなかったという回答が3割ぐらいあった。利用促進、周知というところを是非実証期間中中でお願したい。自家用有償で運行しているので国の制度にある事業者車協力型といってタクシー事業者さんに委託をして運行するようなやり方もある。そういった形で、協力し今あるせつかくの大事な資源、公共交通の資源と思って、よりよく活用して頂いて今後も継続されるのであればいいものを使いながらやって頂いたらと思う。ぜひアンケート結果を今後の活用に使って、よりよい利用促進をしていただきたい。

事務局：報告 (2)自動運転について資料に沿って説明

委員：今回、実証される自動運転については、レベルでいうとどれくらいの所を目指しておられるのか教えていただきたい。

事務局：今回、実証実験行います車両につきましてはレベル4相当のシステムを搭載した車両を使用しての実験となる。ただ、今回の実証実験ではレベル2での走行を考えており一部手動運転に切り替えて運行を行う。将来的にはレベル4での運行を視野にいれ、取り組んでいきたいと考えている。

委員：オーバーライドにて対応とありますが、オーバーライドを具体的に説明をお願いします。

事務局：手動運転という事で自動から手動に切り替えて運転するという事です。所々、オーバ

ーライドにて対応とありますが、例えば交差点でなんかであれば、歩行者を感知することによって、手動運転に切り替わるとか、そういったかたちになっておりますので、要所、要所での人の感知とかによって手動運転を行うこととしている。

委員：道路管理者からお願いしたい点をコメントさせていただきたい。

1. 実験車両が低速車両のため、後ろを走る車が滞留する可能性がありますので事前周知など徹底周知をしていただきたい。
2. 道路占用等の手続きをお願いしたい。
3. 実施期間が1月頃、もっとも寒い時期でなると思いますので、路面凍結の恐れもあり道路管理者としてもパトロールをするが、実験される前に道路等の状況を事前に確認していただき、何か問題点があれば早めに道路管理者にご相談いただきたい。

事務局：必要な手続きについては、ご相談しながら進めていきたい。

委員：実証実験でも万が一の事故があった時の責任の所在について、もう一度確認しておいてください。

事務局：今回の実証実験において、運行自体につきましてはもちろん、備前市にある。

委員：停留所がありますが、必ずそこで停留するののか。

事務局：乗られた方が降車する場所としており乗車する場所としていない。

委員：低速で走行するので後ろにつながると思う。乗車や降車がなくても停留所にとまって、後ろにつかえた車を先に行かすとかそういうふうな配慮をした方がいいのではないか。

事務局：後ろに後続車が滞留するようであれば路肩に寄せて停車できるのであれば、停車し後続車を先に行かせることとしている。

委員：それは、同乗しておる手動運転のドライバーの判断ですか。

事務局：運転手とオペレーターの判断で行う。

4. その他 パーソントリップ調査結果について

岡山県県民生活部県民生活交通課 國廣委員：配布資料に沿って説明